



留守杯日高賞

3歳牝・ダート1600m M1

4月20日（日）水沢競馬場

昨年の優勝馬・エレノール

GRANDAME-JAPAN2025／HIT スタリオンシリーズ

第25回 留守杯日高賞（M1）

（ダンシングプリンス賞）

水沢競馬場／3歳牝・地方競馬全国交流・ダート 1600m

4月20日（日）第11競走 18：15 発走

2001年、かつてのアラブ系重賞の名を引き継いで設定された3歳牝馬重賞『日高賞』は2004年に『留守杯日高賞』と改称、さらに2010年からは全国の牝馬重賞シリーズ“GRANDAME-JAPAN”の3歳シーズンの一戦となった。岩手の牝馬クラシック三冠路線の第一戦でもある。3歳牝馬重賞化以降の25回をカウントしているが日高賞の名称は1969年に遡る最も伝統あるレース名称のひとつ。

■スノーミックス（牝3 盛岡・永田幸宏厩舎）



昨年9月のデビュー戦は2着に終わったが2戦目を8馬身差、3戦目は6馬身差のワンサイドで連勝。春初戦となったスプリングCでも牡馬に伍して4着に食い込んで力のあるところを示した。そんな走りが評価されて1番人気に推されて挑んだ前走のあやめ賞では10着と思わぬ大敗を喫してしまったが、それは一線級を相手にした戦いの中で自分の位置を確かにするための“産みの苦しみ”と考えたいもの。その経験を糧にここに挑む。

「前走後はコンディションを整える調整をしてきたが、それが良い方向にむいて前回よりいい動きだと感じます。初めてのマイルも対応してくれるでしょう（永田幸宏調教師）」

■ファーマビューティ（牝3 大井・大宮和也厩舎）



門別でのデビューから初勝利までは5戦を要し2勝目までもさらに5戦。一進一退の戦績は今でも続くが、レースぶりを見る限りこの馬としては着実に力をつけているようだ。自分の形になれば大敗も…ではあって、近走もそんな結果だったと言えるのだが、しかし南関移籍後は門別時代よりもひとまわり強い相手に食い下がる事が多くなっている点は評価しておきたい。初遠征・初マイルも今後に活きるステップになるはずだ。

写真提供:TCK（東京シティ競馬）

「これまでは短距離が多かったですが走りを見ていて長めの距離も使ってみたいと。馬主さんもそういう意見でしたしマイルのここを選びました。この距離を試してみたいという前向きな気持ちでの遠征。競馬場が変わって馬の気持ち面で違いが出てくれるかも、という点にも期待しています。（大宮和也調教師）」

■フタイテンホイール（牝3 盛岡・齋藤雄一厩舎）



岩手デビューから4戦目で初勝利、それを勲章にしてJRAに移籍後は芝で6戦、それは未勝利に終わったものの自身の時計は詰めつつ、勝ち馬との差も詰めつつ進境は見せていた。半兄フタイテンロックはダートでJRAオープンまで登り詰めたがこちらはそんな戦績でうかがえるように芝向きのイメージが強い。とはいえあやめ賞や昨年の若鮎賞、ダート重賞で4着を確保しているのは地力の表れ。ダートだからと軽視するのは禁物だ。

「状態は変わりなく来ている。もっと軽い馬場が良いのかあるいは左回りが良いのかという感じだが、近走くらい走れるなら水沢でも…だと思います。前が速い展開になれば。（齋藤雄一調教師）」

■タカマキフォー（牝3 水沢・佐藤祐司厩舎）



あやめ賞は11番人気から3着に食い込んで波乱を演出。道中最後方あたりを追走していたところからまくり上げてきた点は、展開が向いた面があったにしても印象深い戦いだった。

デビュー当初は先行タイプだった本馬だが重賞に挑む中で末脚を活かす形に転身、昨年のプリンセスCでもその戦い方で岩手勢2番手の6着に食い込んでいたのだから前走をフロックと見なしてしまうのは危険だ。ここも同じ戦い方で活路を拓くのみ。

「春の三戦目、順調に使ってきたことで上積みは感じます。距離も悪くないでしょうし、前回のような末脚を活かす形が良いのかなと思っています。（佐藤祐司調教師）」

■ノヴェルウェイ（牝3 水沢・伊藤和忍厩舎）



門別でのデビューは昨年8月とやや遅い部類。そのデビュー戦を圧勝で勝ち上がると早速重賞に挑んだが、そこでは強豪ゼロアワーに跳ね返される形になった。佐賀に移籍して3戦、この春から岩手に転じてこれが2戦目になる。一連の成績を見る限りではデビュー戦の1100mのような距離がベター、マイルになると長いと感じるが、前走も苦戦しつつも必ずしも脚が止まっていなかった印象はあった。これがまだ8戦目。伸び代あって良いはず。

「状態は悪くないですしスピードもある馬。ただ、まだどんなレースが良いのか掴み切れていない部分も。短距離が良いのかもしれませんが、ここでどんな走りをしてくれるかでこの馬を把握したいですね。（伊藤和忍調教師）」

■コニパ（牝3 水沢・畠山信一厩舎）



昨年7月の新馬戦を大差圧勝、続いて挑んだビギナーズCでも5着に食い込んで重賞にも十分に手が届く馬だと感じさせたがなかなかタイトルに手が届かずにいる。とはいえ重賞での着順こそその時の5着が最高となっているが勝ち馬との差や、いわゆる立ち回りなども安定感が増している。以前は長いと感じさせたマイル、レース前にエキサイトしてしまう点。一つ一つクリアしてきたのがこの春だ。近二走では今回出走する地元のライバルたちと互角以上に戦ってきている点には改めて注目が必要。

「距離はこなせると思いますし、どこからでも動ける馬。相手は強いですがこの馬の、自分の競馬はできると思います。（畠山信一調教師）」

■フリーダム（牝3 大井・宗形竹見厩舎）



昨年7月の新馬戦を完勝、2戦目の認定競走でも僅差2着。その後も南関3歳牝馬のオープン級で上位を争ってきており実績面ではメンバー中最右翼と言って過言ではない存在。それだけに前走の大敗が気になるが、これは外を追いついていこうとした矢先の4コーナーでの不利の影響が大きかったと考えたいものだ。ここまで4度騎乗して3着以下がない好相性の鞍上に戻るのも大きな魅力と言えるだろう。

写真提供:TCK（東京シティ競馬）

「前走後はそれなりに疲れもありましたが、ここを目標にケアしつつ順調にすることができたと思います。前走は着順的には残念でしたが不利もあった。右回りは走り慣れているし輸送もこなしてくれるでしょう。同世代牝馬同士なら恥ずかしくない競馬ができるとしています。（宗形竹見調教師）」

■ビップジェシー（牝3 盛岡・飯田弘道厩舎）



JRA 未勝利からこの春に岩手転入、その初戦を快勝すると2戦目も、連勝こそなかったが2着を確保して現時点での力量を示した。これが重賞初挑戦であり水沢マイルも初めてと乗り越えるべき壁は低くはないだろうが、ここで生きてきそうなのがJRA時代にダート中距離を経験している点。マイル以上の経験を持つ馬が意外に少ない中ではそれが強みになっていい。ここで手応えある走りができるなら今後の展望も広がるだろう。

「JRA時代に1800mを経験していることからここでマイルを試してみたい。状態も良いですね。前走のような競馬が合っているなので流れに乗って戦えれば。（飯田弘道調教師）」

■ピンクノバラ（牝3 水沢・新田守厩舎）



川崎から3月に転入した初戦は1400mで2番手から押し切る勝利。2戦目も同じ1400mで、初戦よりも歯ごたえを増した相手により強気な戦いを挑んで快勝した。それだけに前走は、今回出走しているライバルもいたとはいえ7着に終わったのは1600mの距離が影響した印象が否めない。力量の高さは示しているだけにマイル二度目でどれだけ変わってくるか？ここが彼女にとっての正念場になる。

「岩手での走りを見る限り右回りがあまり得意では無いのかも。ちょっとテンションが上がってきていますし、ここでどれだけ戦ってくれるでしょうか。（新田守調教師）」

■ステイクラッシー（牝3 水沢・瀬戸幸一厩舎）



昨年6月の新馬戦を勝ち上がり、2戦目で挑戦した若鮎賞で3着、返す刀で挑んだ認定競争では強敵を退けて2勝目。これで上昇気流に確かに乗ったかと感じさせたのだがその後が苦戦の連続になってしまった。ただそれは、今にして思えば自分のレースの形を定める過程で乗り越えるべき苦難だったのかもしれない。あやめ賞では決め手を活かす形で僅差の2着、それはこの馬が欲しかった“自分の形”でもある。この勢いでもう一歩前進を狙う。

「前走後も元気いっぱい状態で良い。その前走のレースぶりからもマイルは大丈夫でしょう。外枠はあまり良い条件では無いかもしれませんが、周りを見ながら動ける枠は決して悪くはないと思います。（瀬戸幸一調教師）」

■モンゲーキララ（牝3 川崎・鈴木義久厩舎）



川崎でのデビュー2戦目で初勝利を挙げると4戦目、5戦目と認定競走を連勝。デビューから5戦で3勝を挙げる活躍を見せた。重賞では現状は9着が最高。しかしそれほど苦戦している印象が無いのは自分の競馬はしっかり貫いているからだろう。先行して早めに押し上げて粘りを発揮する。それが武器のこの馬にとってはこの春は、先行勢に厳しい展開が多かった印象もある。このメンバー・この頭数なら希望の展開が巡ってくる可能性も小さくないはずだ

写真協力：神奈川県川崎競馬組合

「長距離輸送が初めてになるのでそれに対応できるよう中間はケアしてきました。派手な勝ち方でこそ無いけどコンスタントに走ってくれるのがこの馬の強みだし、相手が強いと燃えるようなところもある。チャンスは十分にあると思っています。

（鈴木義久調教師）

文・写真／横川典視